

第5回

メディカルスキャニング・ドクターミーティング講演会のご報告

「症状のみでは分かりにくい脳疾患と脳神経外科の最新動向」

私共メディカルスキャニングでは、先生方の日常の診療に少しでもお役立て頂ける様な講演会にするために、毎回異なるテーマを取り上げ、その専門分野の先生をお招きしご講演をお願いしたいと考えております。

今回は最新の画像診断に関して小林直紀先生よりご講演を頂き、またコダック株式会社との共催により乳腺領域に関し、乳がんの診断について森園英智先生よりご講演を頂きました。

日時：平成15年11月20日（木）

場所：BIZ 新宿

講師：河瀬斌先生
慶応義塾大学脳神経外科教授

様々な脳疾患と、その症状について

脳疾患は症状のみではわかりにくいことが多く、通常以下の点に留意しながら診療を行っている。

- 1 疾患をイメージし、患者から病歴を聞き出す
- 2 画像検査

見落としやすい脳疾患として

- 1 慢性脳硬膜下血腫（高齢者に多い）
- 2 軽症クモ膜下出血（頭部をぶつけた場合など、1～1.5ヶ月のMRIで分かる）
- 3 モヤモヤ病（東洋人に多い。小児の過去吸に多い。）

脳特異性のある症状→疑い

- 1 突然の頭痛、吐き気→クモ膜下出血
- 2 視野狭窄→下垂体腫瘍
- 3 てんかん発作→脳腫瘍・奇形動静脈
- 4 TIA（一過性片麻痺）小児の過呼吸&手足の麻痺→モヤモヤ病
- 5 複視→脳深部、脳幹に異常がある可能性が高い（緊急性が高い）
※長期に亘る頭痛・けいれん発作→脳腫瘍症状の疑いが大きい

お問い合わせ

メディカルスキャニング 医療連携室

☎ 03-5778-2905（担当 大島 / 赤松）

✉ seminar@medicallscanning.net

MEDICAL SCANNING
メディカルスキャニング

第5回

メディカルスキャニング・ドクターミーティング講演会のご報告

「症状のみでは分かりにくい脳疾患と脳神経外科の最新動向」

＜脳神経外科の最新動向＞

脳外科以外の他科とのチームワークで成り立つ治療や、また画像診断の発達に伴って開発された手術法も生まれてきた。

脳神経外科の新しい治療法

① 頭蓋底外科

15年前にできた分野で、それまでは手術不可能だった場所に発生した腫瘍の除去などが可能となった。形成外科・耳鼻科・整形外科と連携して手術にあたる。

② 血管内治療

約10年からMRIの普及に伴って開発。脳動脈瘤にコイルを入れて治療する手術で2～3日の入院で可能な反面、手術ほど確実でない場合もあり、また特殊技術者のみに限られる治療法である。

③ ナビゲーション手術

頭部にマーカーをつけてMRI撮影を行い、それをナビゲーションマップとしてナビゲータをつけた手術顕微鏡で施術。脳を傷つけないで脳室内深部に入ることができる。

④ 神経内視鏡

脳室内病変・水頭症に活躍

⑤ パーキンソン病

最近では、内科的治療では症状の緩和が困難な患者も、脳外科的治療で回復することが多い。視床下核に電極をつけ、電流を通すことで重度の患者も自力歩行が可能となる様など、いくつかの大変印象深いビデオを見せてもらいました。

